

狭山の元気 発見

躍

いきいき狭山人
びと

自分のメダル獲得が、この競技の普及に役立つことを願っています



北欧で生まれた新しいバリアフリースポーツ トレイルオリエンテーリングの魅力 多くの人に伝えていきたい

皆さんの中にも、オリエンテーリングという野外競技を経験した方がいると思います。オリエンテーリングとは、地図上に指定された複数の地点を通過して、いかに早

くゴールするかを競うスポーツです。一般に知られているのは、自分の足で走って移動するフットオリエンテーリングで、その他にスキーや、マウンテンバイクに乗って行うものもあります。いずれもスピードを競う競技です。そして現在、注目されている種目が「トレイルオリエンテーリング」と呼ばれるもので、タイムレースではなく、車椅子などの競技者も通れる道を回りながら、制限時間内にゴールするものです。今回ご紹介する木村治雄さんは、この種目で日本を代表する選手・指導者として活躍されています。

「小学生の時、ボーイスカウトでオリエンテーリングに興味を持ち、大学のクラブで本格的に始めました」と語る木村さん。その後も社会人になつて練習と試合を積み重ね、日本代表として、今年8月にハンガリーで開催された第6回世界トレイルオリエンテーリング選手権大会に出場して、見事に銅メダルを獲得しました。



世界選手権大会のメダリストたちと
木村治雄さん(入間川在住)

「このメダルは、日本チームとして強化に取り組んだ結果であり、私個人でなく日本が取ったメダルだと思っと思っています。共にこの大会を目指して、努力してきた仲間たちに感謝の気持ちでいっぱいです」と言いつつも、日本のレベルは国際的にも高いので、まず国内代表になるのが大変なんです。過去の試合の失敗を繰り返さずに、歩測や目測の精度を高めることが必要だと思えます」と、常に上を目指す努力を怠りません。

さて、木村さんがこの競技の普及にも取り組む大きな理由として、障害者と健常者が一緒にプレーできるといふことがあげられます。もともとはスウェーデンで、障害者のためのオリエンテーリングとして始まったものですが、最近では健常者も競技するスタイルに変わりました。「健常者と同じ条件下で競い合ったり、障害者と健常者のチームで試合ができるので、障害者の皆さんにとっても魅力あるスポーツだと思えます。多くの人にこの競技を知ってもらいたい。また、市内の小中学生にもぜひ体験してもらえよう」と指導とPRに努めていきたいと抱負を語る木村さん。

世界の一流選手として、指導者として、これからの更なる活躍が期待されています。

第6回世界トレイルオリエンテーリング選手権大会 銅メダリスト

オピニオン

外でも安心して遊べるスペースを



原田優子さん
(笹井在住)

昨年新しくできた「子育てプレイス奥富」をよく利用しています。親として、子どもを安心して遊ばせる施設が近くにあることは、とてもうれしく思っています。施設的环境も衛生的で過ごしやすく、また、職員の皆さんは、初めての利用者と、他の利用者との間を取り持ってくれたりなど、明るい雰囲気作りに気を遣っていただいていることに感謝しています。

最近、施設を利用して感じるものが二つあります。一つは、屋外にも子どもを遊ばせられるスペースがあればと思います。屋内で過ごすのは目が行き届き安心できていいのですが、やはり天気の良い日は、お日様の下で遊ばせてあげたくります。もう一つは、年間をとおしてイベントなどの開催一覧を用意していただけると嬉しいです。前もって予定が分かれば、それに都合を合わせられますし、利用者同士の話題にもなって、楽しみが増えると思います。

今では、施設で知り合った友人も増えました。これからも、安心して子どもを遊ばせられる「子育てプレイス奥富」を利用していきたいと思います。

市の考え方

子育てプレイス奥富には芝生広場もありますが、駐車場との間に柵がありません。戸外で安心して遊べる場としてはワイワイ広場(詳細は15ページ参照)を上奥富運動公園などで実施していますので、ぜひ参加してみてください。また、講座などの実施予定は、できるだけ分かりやすく、早めにお知らせできるよう工夫していきます。

担当 子育て支援課

皆さんの「声」をお待ちしています。お寄せいただく際は、住所、氏名、電話番号をご記入ください。☎2954 6262(代) ☒koho@city.sayama.saitama.jp

私の宝物 ...

家族のきずなを感じます



菅谷みさ子さん
(下奥富在住)

家族は、喜びも悲しみも共に分かち合える最も身近な存在だと思います。親から子へ、子から孫へと続くこの関係だけは、切っても切れないものです。

私が、今でも大切にしている、大事にしまっているものに、子どもが小さいころに着せた甚平があります。私が子どものときにも、親に着せてもらっていたので、この甚平を見るたびに、昔にタイム



懐かしい家族の思い出がよみがえります

スリップしたような心地よい思いに浸ることができます。

今の私の願いは、孫にも甚平を着せてあげることができたので、次は、ひ孫にも同じように甚平を着せてあげることです。

今回は入間川にお住まいの方をご紹介します。

Hello ハロー仲間たち

Vol.338



多くのボランティアに支えられて頑張ってます

さやまカレッツシアクターズ

私たちは、子どもが芝居の世界で伸び伸びと表現することを楽しみ、お互いの存在を認め、自分の感性で自由に自己表現できる場を提供したいと願って、中央公民館で活動している劇団です。以前は、「狭山児童劇団カレッツ」という名称でしたが、10周年を節目に、平成19年「さやまカレッツシアクターズ」を設立して2年目になりました。

現在は、小学1年生から中学2年生まで、15名のメンバーで活動し、昨年はFM茶臼の放送劇に出演、今年の2月に旗揚げ公演、10月に市民会館で2回目の自主公演、また、来年の2月には、狭山市民芸術祭への参加を予定しています。普段の練習では、発声法などとともに、芝居作りを通じて仲間との信頼関係、身体表現とコミュニケーション術、共同表現、自己表現と受け止め方を学んでいます。小学生から高校生までを対象に活動していますので、興味のある方は、ぜひ私たちの仲間になってみませんか。問合せ 打揚真理子さんへ

2957 4122